

第 22 回小諸新校再編実施計画懇話会

日時：令和 7 年 6 月 16 日（月）

18 時 00 分～19 時 30 分

会場：小諸市庁舎 3 階 第 1 ・第 2 会議室

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 自己紹介

4 会議事項

（1）第 21 回小諸新校再編実施計画懇話会のまとめ（案） 【資料 1】

（2）校歌・校章 お披露目 【資料 2】

（3）ワーキンググループ進捗状況報告 【資料 3】

（4）今後の課題について

5 連絡報告

6 その他

7 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第22回 小諸新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

※◎座長 ○新構成員

No	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	田 中 尚 公	小諸市	副市長
2		山 下 千 鶴 子	小諸市教育委員会	教育長
3		宮 本 隆	北佐久郡町村教育委員会連絡協議会	代表
4	産業界	塩 川 秀 忠	小諸商工会議所	会頭
5		鷹 野 裕 一	一般社団法人小諸青年会議所	理事長
6		清 水 信	(株)かのを屋	代表取締役
7	学識経験者	西 村 廣 一	小諸商業高校・小諸高校	元校長
8	地域	甘 利 庸 子	のぞみグループ	代表
9		○ 滝 沢 裕 之	佐久地域振興局	局長
10	同窓会	◎ 高 見 澤 敏 光	小諸商業高等学校同窓会	特別顧問
11		東 城 芳 春	小諸高等学校同窓会	会長
12	P T A	○ 塩 川 久 美 子	小諸商業高等学校 P T A	会長
13		○ 飯 嶋 さ や か	小諸高等学校 P T A	会長
14		嶋 田 知 英	小諸市 P T A 連合会	会長
15	学校関係者	甘 利 哲 夫	小諸市校長会	副会長
16		栗 津 原 弘 文	小諸市内中学校代表	校長
17	再編対象校	栞 原 勝 海	小諸商業高等学校	生徒会長
18		武 井 瑚 羽	小諸商業高等学校	生徒会副会長
19		矢 澤 健 吾	小諸商業高等学校	2 学年代表
20		竹 内 太 夢	小諸高等学校	生徒会長
21		關 陽 芙 美	小諸高等学校	生徒会副会長
22		大 池 花 佳	小諸高等学校	生徒会副会長
23		坂 口 健 之	小諸商業高等学校	校長
24		大 槻 高 範	小諸商業高等学校	教諭
25		柳 澤 弘 蔵	小諸高等学校	校長
26		新 井 雅 人	小諸高等学校	教諭

事務局

学校名	氏名（役職等）
小 諸 商 業 高 校	辻 隆秀 教頭（事務局長） 大槻 高範 教諭 柳澤佐知子 教諭 中澤 深二 教諭 郷津 祐介 教諭
小 諸 高 校	有坂 清明 教頭（副事務局長） 新井 雅人 教諭 甲田 健 教諭 荻原 萌花 教諭 中村 幸司 教諭

	高校教育課 高校再編推進室	
長野県教育委員会 事務局	原 多恵子	主幹指導主事
	原 周一郎	主任指導主事
	細萱 裕樹	主任指導主事
	○宮澤 春奈	主事
	学びの改革支援課 高校教育指導係	
	○前山 和志	主幹指導主事

第 21 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

【資料 1】

日 時	令和 7 年（2025 年） 4 月 24 日（木） 午後 6 時から午後 7 時 30 分						
会 場	東信教育事務所 講堂						
出欠席 (敬称略 ◎座長)	田中 尚公 甘利 庸子 栗津原弘文 大池 花佳	山下千鶴子 ◎高見澤敏光 栗原 勝海 坂口 健之	宮本 隆 東城 芳春 武井 瑚羽 大槻 高範	塩川 秀忠 黒田 説榮 矢澤 健吾 柳澤 弘蔵	清水 信 嶋田 知英 竹内 太夢 新井 雅人	西村 廣一 甘利 哲夫 關 陽芙美 以上 23 名	
欠席 (敬称略)	滝沢 裕之	塩川久美子	以上 2 名	傍聴者	傍聴 4 名（オンライン 1 名）		
事務局	小諸商業高校	4 名	辻教頭（事務局長）	柳澤教諭	中澤教諭	郷津教諭	
	小諸高校	4 名	有坂教頭（副事務局長）	甲田教諭	荻原教諭	中村教諭	
	県教育委員会	4 名	百瀬参事 佐野室長	細萱主任指導主事	原（周）	主任指導主事	
	建設部施設課	2 名	佐藤企画幹兼施設第一係長	分部技師			
会議事項	(1) 第 20 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案） (2) 施設整備のスケジュールについて						
当日資料	次第、開催要項、構成員名簿、第 20 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案）、 小諸義塾高校（仮称）施設整備の進捗状況について						
主な内容（・説明内容）							
会議事項について (1) 第 20 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案） ・事務局から説明し、意見及び質問なし。 (2) 施設整備のスケジュールについて 【工期延長について】〔建設部施設課より説明〕 ・新校建設工事の工期は令和 8 年 3 月 10 日までの予定であったが、工事を安全に進めるため、新棟及び音楽ホールのしゅん工まで約 4 カ月の工期延長が必要となった。 ・原因は、新棟の基礎部分に近接する既存擁壁（グラウンドと校舎の間の段差を作っているコンクリート壁）の地中部分を試掘した結果、既存擁壁と設計図の相違が判明したことにより、施工手順の大幅な見直しが必要となったため。 ・また、既存擁壁周辺の掘削作業を進める中で、地中に多くの転石（最大約 1.2m の大きな石）が点在していることが判明し、破碎等の作業に日数を要することとなったため。 ・当初の作業工程は約 3 カ月で既存擁壁の下段（グラウンド側）の基礎工事と既存擁壁の上段（既存校舎棟側）の地盤改良工事を 2 カ所とも同時に着手し完了させる予定であった。 ・安全に工事を進めるための変更後の作業工程（設計での想定期間＋約 4 カ月）は以下の通り。 ①既存擁壁の安全確保（土圧による滑動防止）のため、上段の土のすき取り作業を先行で完了させる。（検討含め＋約 1.5 カ月） ②上段の地盤改良工事で使用する重機の荷重に耐えられるよう下段の新棟 1 階の壁立上りまでの作業を完了させる。（＋約 1.5 カ月） ③上段の地盤改良工事の作業を完了させる。（＋約 1.0 カ月） 【今後の対応について】〔高校再編推進室より説明〕 ・これまで学校説明会や地域説明会を通して説明してきた経緯、小諸義塾高校で学ぶことを楽しみにしている現在の 1、2 年生や入学を希望している中学生、これまでの準備の状況、地域や同窓会関係者等からの期待などを考え、令和 8 年 4 月開校は変更しない方針。 ・様々な観点から検討した結果、小諸義塾高校の校舎が完成するまでの間、普通科、音楽科は現小諸高校の校地、商業科は現小諸商業高校の校地で学校生活をそのまま送ることとしたい。 ・両校職員会議で、工期延長に至った経緯と、現時点で考える今後の対応についての説明を行い、両校の生徒及び保護者には文書で工期延長への対応についてお知らせをした。また、改めて説明の機会を設ける。 ・生徒の学校生活や学びを最大限保障できるよう、両校と連携しながら進めていく。							

【質問】[→施設課回答 →高校再編推進室回答]

- ・擁壁部分に関して、上段に重機等を乗せたとき荷重に耐えられないということが判明したということか。
- 擁壁の寸法を図る作業は進めていたが、実際に重機で試掘調査を1月の中旬に行った。その段階で図面と現場の状況が異なることが判明した。
- ・掘削作業中に転石の存在が判明したということか。また、着工前に地盤の調査は当然行われるべきものだが、調査されていなかったということか。
- 試掘調査は擁壁に対して調べていたため、実際にグラウンド側で既存擁壁の掘削工事を始めたら、その段階で地中から転石が出てきたという状況であった。事前に、地盤調査、ボーリング調査も行ったが転石を発見できなかった。
- ・施設課が立ち会い、工程管理を行う定例会議の場で、試掘調査の件は議題となっていなかったということか。
- 施工者、設計者（工事監理者）、学校、施設課とで定例会議をこれまでも行ってきており、既存擁壁についての試掘調査についても議題として出された。
- ・まず安全第一で進めてもらいたい。その上で、工期延長は4カ月で守られるのか。
- 不測の事態があるかもしれないが、作業工程の調整を含めて遅れることがないように進めていきたい。
- ・開校後、音楽科、普通科は小諸高校、商業科は小諸商業高校の校地で分かれて学ぶことに不安がある。
- ⇒開校して、当面の間、二つのキャンパスを使わざるを得ないことは本当に申し訳ない。生徒諸君の不安な気持ちは理解している。今後は、県教育委員会や、両校の先生方と一緒に、生徒諸君にもどんなことができるのか考えてもらいたい。

◎座長まとめ

- ・工法の見直しに関わる工期の延長については、仕方のないことだと感じているが、工期が4カ月延長となることにより、開校時に新棟や音楽ホールがしゅん工していないこと、普通科、音楽科と商業科の生徒が開校時に同じ校舎で学べないことは残念。
- ・令和8年の開校は変更せずに準備を進めていくため、両校と県教育委員会、建設部施設課で連携をとりながら、生徒の学びや学校生活の保障、生徒、保護者、地域への説明、工事への対応など、多岐にわたる課題について乗り切ってもらいたい。
- ・懇話会としても、開校し、地域に愛され、期待される学校となるように引き続き、応援をしていきたい。

(3) 連絡報告〔事務局より〕

- ・「校章」と「校歌」については、5月上旬の決定を予定。5月下旬にお披露目をする方向で準備を進めている。
- ・今年度の学校説明会は、小諸商業高校にて6月下旬、8月下旬、10月上旬3回の開催を予定。
- ・ゴールデンウィーク期間中には、近隣の中学校向けにチラシを作成・配布する予定。
- ・体験入学は音楽科：6月14日（土）、普通科：7月28日（月）、商業科：7月31日（木）に実施予定。
- ・開校を翌年に控え、検討事項も多岐にわたることから、従来のワーキンググループを、より多くの教員が携われる体制に再編成を行っている。
- ・小諸義塾高校では商業科を「ビジネス科」という新たな名称で設置する方向で県教育委員会と検討を進めている。県内の商業高校、商業科を設置している学校に先駆けて、「ビジネス科」という名称を使うことになる。県内の商業教育、ビジネス教育を、リードしていけるような存在になればと考えている。

その他

- ・第22回再編実施計画懇話会については令和7年6月に実施予定。



【コミュニケーションマーク】



【ロゴタイプ】



長野県小諸義塾高等学校
KOMOROGIJUKU HIGH SCHOOL

校 歌

一．

浅間を望む 生命のきらめき
白い五線に夢紡ぐ

古城に咲くはぬくもりの花
胸に描くは八重咲の未来

歴史を抱き 今日を歌え
小諸義塾 我が導（しるべ）

二．

千曲にそよぐ 若葉のしらべよ
光る稜線 夢つなぐ

空に架けるは探究の橋
心耕し己を見つめ

歴史を抱き 明日を歌え
小諸義塾 我が導（しるべ）

三．

脈打つ大地 生命の輝き
高原駆けぬけ 夢織りなす

あおきみそらに心をはなて
志高く 道を拓いて

歴史を抱き 未来歌え
小諸義塾 我が導（しるべ）

※5 月 24 日お披露目会でのコメントより

校章 制作の思い・解説

制作者 堺 奈央 様

【校章とコミュニケーションマークの併用】

従来から使われている「校章」に加えて「コミュニケーションマーク」を導入します。コミュニケーションマークを取り入れている高校は少ないですが「グローバル」や「3 科融合」、「今までにない校舎デザイン」や「標準服」の導入など新しいことに挑戦する小諸義塾高校の今後の展望を考えたときに、対外的な活動を後押しする広報ツールを取り入れた方が良いと判断し、コミュニケーションマークを採用しました。

【校章とは】

学校を象徴する紋章のこと、どの学校に所属しているか表し、他校との識別のために使う。
(使用例：制服、バッジ、校旗、生徒手帳、学生証、賞状、卒業証書など)

【コミュニケーションマークとは】

学校のイメージを分かりやすく伝えるマークのこと、対外的なイメージ構築につかう広報ツール。(使用例：名刺、HP、パンフレット、ポスター、ユニフォーム、グッズ、広報誌、封筒など)

【校章】

小諸市の学校教育の象徴であり、市の木に制定されている梅の木から、「梅花（ばいか）」をモチーフにしています。5 枚花弁の梅花の中に「小諸義塾」の「小」と「義」の文字を入れ、紋や印のような印象にしています。「小」と「義」を入れることでどの学校か一目で分かりやすいデザインを心がけました。

カラーは梅花をイメージできるレッドにしています。このレッドには、生徒の皆さまが情熱や熱意をもって物事に真摯に向き合って欲しいという願いが込められています。

「義」の文字の上部には大手門の「鯨（しゃち）」の形を抽象化し取り入れています。大手門をデザインに取り入れたのは・小諸義塾の初期に学舎として使っていたこと、

- ・皆さまが小諸市をイメージしやすいこと、
- ・マークに個性を持たせること、

が目的です。

【コミュニケーションマーク】

モチーフは校章と同様の「梅花」です。「3 科融合」のスローガンをテーマに 3 枚の花弁に 3 色のカラーを取り入れた案です。おしべの部分は「小諸」の「小」を表現しています。カラーは、新校の学びに対してのスローガンからキーワードをいただき、設定しました。

- ・鸚緑（グリーン）： 自然体、落ち着き、調和
- ・天色（ブルー）： 誠実、繊細、技術、信頼
- ・紅葉色（朱色）： 情熱、活発、社交的

そして、明治時代からの「小諸義塾」の勉学に対する精神や情熱も引き継いで欲しいという考えから、「紋」のような印象を加えました。「紋」は古くから日本でよく使われておりその使われ方は先代から次世代に代々受け継がれていくというものです。その精神を取り入れて、卒業生から進級生へ、そして新入生へ、学ぶ姿勢や精神も受け継ぎ、小諸義塾高等学校らしさを形作って欲しいという願いが込められています。また、紋のような印象にすることで力強さと存在感を感じるマークになっています。

【ロゴタイプ（文字）】

「グローバルな視点で未来を創造する 3 科融合校」とする新校の方針を基に多様な使用シーンに対応できるデザインを心がけました。視認性の高いゴシック体を採用し、イメージの中立をはかりました。

英字タイプは「NAGANO」を省略した「KOMOROGIJUKU HIGH SCHOOL」のみとし、すっきりとした印象にしています。

小さい印字や英字タイプだけでの使用など、様々なシーンに使い勝手の良さと視認性を重視しました。

校歌 制作の思い・解説

制作者 横内 日菜子 様

2017 年に小諸高校音楽科を卒業した私は、安曇野市から片道 2 時間かけて通学していた日々を今でも懐かしく思い出します。在学中、仲間との出会いを通じてミュージカルの魅力に目覚め、大学では作曲を学びました。現在はコンサートの編曲を中心に活動していますが、ミュージカルの音楽監督や劇団四季の新作開発など、当時夢見たことが少しずつ現実になっています。

上京したばかりの頃は、文化の違いに戸惑い、自信を失った時期もありました。しかし、自然豊かな環境で育った経験は、あとから手に入れられるものではないと気づき、自分がどれほど特別な日々を過ごしてきたかを実感しました。

この思いを新しい校歌に込めたいと考え、小諸の自然や歴史、そこで育まれてきたものの尊さを言葉にしました。同時に、高校生のいまの心に寄り添う、みずみずしさのある歌にしたいとも願いました。

- 1 番では、小諸の自然と歴史に包まれながら夢を描き始める希望を
 - 2 番では、学びや自分自身と向き合うことの大切さを
 - 3 番では、自立し未来に向かって進む意志を
- それぞれ歌っています。

校歌には、小諸市の花「こもろすみれ」（八重咲き）や、学校のキーワード「探究」も盛り込みました。調性は、素朴で温かみのあるへ長調。これは、小諸という土地にふさわしいと感じて選びました。

「歴史を抱き今日を歌え」というフレーズは、状況に応じて「今日」「明日」「未来」と変化します。これは、伝統を大切にしながらも、そこにとらわれず、今をおもしろくしていく前向きさを表現しています。高校生活はあっという間だけれど、心に残る時間です。小諸義塾高校での毎日が、みなさんの人生の「しるべ」になることを願っています。

小諸義塾高校（仮称）開校に向けた検討事項の進捗状況報告 【資料3】

第22回 小諸新校再編実施計画懇話会資料

WG	検討項目	令和7年6月までの進捗状況
学校全体	校歌、校旗・校章	・ 5月24日（土）お披露目会を実施。
	ホームページ開設・更新	・ 「県立高校の情報発信強化・充実のためのホームページ構築事業」により新規に開設予定。10月1日公開に向けて手続きを進めている。契約締結後、構成やデザイン等の検討はWG-⑦がおこなう。
	広報計画・パンフ作成 小中学校向け広報 学校説明会 その他の説明会等	・ 別紙「体験入学、学校説明会/校舎案内」のちらしを作成。佐久地区の中学校へ配布済み。中学校訪問の際に引き続き広報をおこなう。8月30日地域説明会を兼ねて学校説明会、10月4日AM音楽科説明会、部活見学会、PM学校説明会を予定。 クラブ体験会9月9日（火） 別途、中学校訪問も実施予定。
	広報Q & Aの作成	・ 現在の新校ホームページにてQ&Aを整理して掲載中。
① 教務全般	入学式・卒業式	・ 令和8年開校式、始業式、入学式の日程について高校再編推進室と連絡をとりながら日程、会場等を調整中。
	修学旅行	・ 令和8年修学旅行11月16日～19日（3泊4日）沖縄に決定。行程については、これから検討していく。
	体験入学	（小諸高校開催）音楽科 6月14日（土）、普通科 7月28日（月）・（小諸商業高校開催）商業科 7月31日（木）
	履修・修得・卒業認定	・ 4月30日新校合同準備会議①にて内規（原案）を教科ごとに読み合わせ。意見や質問等を集約し、WGにて修正案を検討しほぼ終了。
	資格単位	・ 増加単位について教科ごとに検討中。
	日課時限	・ 4月30日新校合同準備会議①にて教科ごとに検討、意見や質問等集約し別紙のように確定。
	年間行事検討	・ 大まかな行事検討をおこない、WG-④生徒会へ行事日数のめど（8日間）として内容について検討を依頼。
	行事検討	・ WG-④生徒会を中心に検討中。
	校務分掌	・ 大枠の校務分掌表について決定。細かな業務については、8月20日新校合同準備会議②にて検討する。委員会などの分掌表の検討を始めている。
	内規	・ 生徒指導内規、学校のきまり（校則）について4月22日県教育委員会心の支援課より主任指導主事を招いての学習会を実施した。その内容を踏まえて生徒指導内規の最終案を作成し、両校で検討中。学校のきまりについて検討を進めている。
② [A教育課程 進路関係]	HR配置、職員室配置	・ WGにて原案を作成、各教科にて検討中。
	教育課程	・ 令和8年度教育課程についてブラッシュアップ。習熟度学習や講座分けなど時間割を作成に向けた細かな部分の検討に入っている。
	空コマ授業検討	（FLTの説明にて）
	外部への挨拶	・ 大学や短期大学、専門学校、企業向けに新校開校の挨拶依頼文の郵送をおこない、指定校推薦の継続依頼について手続きを進めている。

WG	検討項目	令和7年6月までの進捗状況
[B探究]	探究的な学び	・ 来年度以降の探究について大枠を検討している。
	R7探究（3科融合含む）	・ 1学年については、共通の教材を作成し「探究のサイクル」を学ぶ。また、小諸商業高校と小諸高校で時期は異なるが、フィールドワークを実施予定。 10月16日両校合同で小諸市内の市役所、企業の方々に協力していただき「地域探究」につながる講座を実施する。
[C小諸共学共創コンソーシアム]	地域連携 教科・学科横断型の学び 本物に触れる学び 大学・企業連携	・ 6月3日市役所企画課より小林課長、三井係長、連携コーディネーターに参加してもらいWGを実施。目線合わせを行いながら、より具体的なコンソーシアムの枠組みを検討することを確認した。次回までにそれぞれの学校の活動をまとめて資料を作り検討の材料とする。 県の事業である「県立高校特色化事業・特色化スタートアップ事業」の事業計画やアドバイザー委託、視察についても検討した。
③ 施設利用	備品の整備 FLA,先生コーナー活用ほか	・ NSDプロジェクトの方針に沿った備品の選定を設計者と連携をとりながら進めている。一部について入札手続きに移っている。 NSDプロジェクト1校目ということもあり、備品の選定も手探りの部分も多いため、時間はかかるが試験的な導入をおこないながら慎重に選定をおこなう。
	既存校舎からの引越	・ 6月13日・14日定時制 生徒HR教室、職員室、保健室や全日制服被服室等の引っ越しを実施。予想以上に準備項目が多く、課題も多く見つかった。次回の引っ越しに向けて準備を進めている。
④ 生徒会	生徒会組織、委員会名称	・ 両校の生徒総会にて新校の生徒会組織の大枠について承認された。名称や細かな業務について検討を進めている。文化祭の名称は多くの方の意見を聞きながら決定したいと考えている。
	行事検討	・ 8日間をめどに行事について検討を進めている。
	R7合同活動（CM,クラスマッチ）	・ 文化祭ではステージバックを両校で一緒に制作している。7月5日小諸高校一般公開に、小諸商業高校ブースを出展する。クラスマッチは、2日のうち1日は合同で開催する。運営方法や会場については検討中。
⑤ 入試	実施予定概要調査	・ すでに4回のWGをおこない、入試制度について検討を進めている。令和8年度入試は小諸高校の校舎を使用して実施する。（定時制一部入試は、小諸商業高校の校舎を利用する。）
⑥ 校則	学校のきまり（校則） 免許・アルバイト規定 交通安全	・ 「生徒の意見を取り入れた校則の作成」という流れを作り、今年度だけでなく将来的にも継続的に見直しをおこなっていくという方向を確認した。合同生徒会とも連携しながら学校のきまりの検討を進めていく。
⑦ DX×ICT	ホームページ開設・更新	・ 新校ホームページ開設にむけて検討を進めている。音楽科については、デザインを変えた音楽科特設ページを入れる予定で進めている。
	その他全般	・ 新校に向けてICTで対応できる問題やDXによる業務効率化を目指し、改善点の情報収集をおこなっている。

小諸義塾高校の日課のイメージ（普通科・商業科は木が7時間、音楽科は火木が7時間）

			月	火	水		木				金			
①限	8:40 ～ 9:30	50分						50分	8:40 ～ 9:30	①限		50分	8:40 ～ 9:30	①限
②限	9:40 ～ 10:30	50分						50分	9:40 ～ 10:30	②限		50分	9:40 ～ 10:30	②限
③限	10:40 ～ 11:30	50分						50分	10:40 ～ 11:30	③限		50分	10:40 ～ 11:30	③限
④限	11:40 ～ 12:30	50分						50分	11:40 ～ 12:30	④限		50分	11:40 ～ 12:30	④限
昼	12:30 ～ 13:15	45分						45分	12:30 ～ 13:15	昼		45分	12:30 ～ 13:15	昼
SHR	13:15～	10分					LHR	50分	13:15 ～ 14:05	⑤限		10分	13:15～	SHR
清掃	13:25～	10分						50分	14:15 ～ 15:05	⑥限		10分	13:25～	清掃
⑤限	13:40 ～ 14:30	50分					商：課題研究 音：重唱重奏	50分	15:15 ～ 16:05	⑦限	探究	50分	13:40 ～ 14:30	⑤限
⑥限	14:40 ～ 15:30	50分					商：課題研究 音：合唱合奏	50分			探究	50分	14:40 ～ 15:30	⑥限
⑦限	15:40 ～ 16:30	50分		音楽科 のみ授業										

★普通科の月～木いずれかのPMに配置する「主体的な学びの時間」を選択できるようにし、時間割の中でも放課後と同様に課外活動や学校外学修など自分に合わせて柔軟に活動できる。

★木PMに商業科「課題研究」と音楽科「重唱重奏」「合唱合奏」を配置し、学科ごと柔軟に活動できる。

★金PMに「探究」を配置し、学年または学科を越えて柔軟に活動できる。

★3年「探究」を活用して、デュアル実習が実施できる。

普通科「主体的な学びの時間」の例

■通常の科目の授業を選択すると…

	月	火	水	木	金
①限					
②限					
③限					
④限					
⑤限					
⑥限					
⑦限					

1限～6限（7限）まで授業を行う

■「主体的な学びの時間」を選択すると…

	月	火	水	木	金
①限					
②限					
③限					
④限					
⑤限					
⑥限					
⑦限					

学校外へ

校内のFLA（フレキシブルラーニングエリア）へ

放
課
後

★放課後＝「主体的な学びの時間」…放課後の時間を“自分”に合わせてカスタマイズできる。
例)

- ・部活動や生徒会活動、検定学習や補習、自学自習、自主的な探究活動、生徒・先生企画のイベント
- ・授業の追加履修
- ・市主催の講座やゼミ
- ・高大連携、学校間連携
- ・ボランティア活動、就業体験活動等
- ・その他自主的な活動

地域連携の可能性
学校外の学修活動による単位認定の可能性

フレキシブルラーニングタイム（FLT）

放課後も含めた日課の中に、校内外で自由に学んだり、活動したりできる時間帯。

自分の「好き」を究める学びに挑戦できる。

令和8年4月開校

長野県小諸義塾高等学校

(仮称)

2025

School Information Meeting

中学校
1・2年生、
先生方の
参加も歓迎

体験入学 / 学校説明会 / 校舎案内

体験入学

6.14 *Sat.*

音楽科 (小諸高校)

7.28 *Mon.*

普通科 (小諸高校)

7.31 *Thu.*

商業科 (小諸商業高校)

※申し込みは、中学校を
通じてお願いします。

学校説明会 & 校舎案内

8.30 *Sat.*

9:30~11:00 [受付9:00~]
地域説明会 同時開催

10.4 *Sat.*

13:30~15:00 [受付13:00~]
AM 音楽科説明会 (小諸高校)

会場：両日とも **小諸商業高校**

学校説明会
申し込み
フォーム➡



中学校訪問

個別相談も **随時**実施します！

※担当者が中学校を訪問しての説明会（生徒対象、保護者対象、先生対象ほか）や個別のご相談も随時、対応させていただきます。遠慮なくご連絡ください。

小諸新校サイト



連絡先：小諸商業高校 辻 (教頭) 0267-22-0103
小諸高校 有坂 (教頭) 0267-22-0216